

ミニストップ 環境社会報告書 2004

2004 **MINISTOP** Sustainability Report

01 社長座談会 それぞれの立場で考える「安全な食とは？」

03 コンビニのライフサイクル ミニストップはこうして生まれます

07 社長メッセージ もう一度、原点に返って

08 もっと「安全」を伝えたい

09 グリーン商品を増やすために

11 一目でわかるお店の取り組み

13 まだまだあるお店の取り組み

15 お店独自の取り組み

17 みんなが提案「ミニストップ21キャンペーン」

19 あらゆる方と、声のやりとり

21 小さな気持ちが大きな力に

22 第三者からのご意見・編集方針

別紙 2003アンケート結果と2004アンケート、コールセンターに寄せられた声
ミニストップと社会との関わり、ウェブサイトでご覧いただける内容



写真は刈り取った稲を「杭かけ」という方法で干しているところです。(山形県最上郡金山町)

それぞれの立場で考える「安全な食とは？」

ミニストップでは安全な食品を提供することが重要な社会的責任だと考えています。そこで、商品を選択する側のお客さま、販売する側の加盟店オーナー、そして、開発・提供する側であるミニストップの社員が、「安全な食」について、求めることや理解して欲しいことを話し合いました。

*この座談会は2004年1月14日に実施しました。所属等は実施日のものです。

社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
理事 環境委員会委員長

辰巳 菊子氏

自宅で仕事をする事が多く、コンビニのコピーをよく利用します。白色度の低い再生紙のコピー用紙を置いている店がなくて残念に思っています。



専業主婦

桃井 優子氏

2才の娘も私もアレルギーを持っているので食品表示には気をつけています。コンビニでは昼間スーパーで買っ忘れたものを買ひ足したり、化粧品や飲み物を買ったりすることが多いです。



岡崎洞町店(愛知県) オーナー

永田 善一

店は愛知県郊外の自動車工場の多い地域です。ミニストップを始めてまだ2ヵ月ですが、カフェレストランを20年経営していたこともあり、いつも安全な食について考えています。



獨協大学4年生(2004年4月ミニストップ入社)

清水 美菜子

店員さんが楽しそうに働いている会社だと思いミニストップに就職を希望しました。自宅から徒歩3分ほどにあるミニストップをいつも利用しています。



ミニストップ株式会社 商品本部 地区商品部 部長

竹本 竜治

地区商品部で東北・東海・近畿を担当し、米飯をはじめとした食材にも関わっています。(財)全国米穀協会から、栽培・流通・保管・販売など米のあらゆる知識を習得した「おこめアドバイザー」の認定も受けました。



ミニストップ株式会社 代表取締役社長

横尾 博

ミニストップの取り組みやこだわりを、もっとお客さまにお知らせして安心していただきたいと思っています。



横尾:ミニストップは、幅広い層のお客さまに安全と便利さと健康をお届けすることが社会的責任だと思っています。お客さまに「ミニストップなら安心」と言っていただけのお店づくりを進めるために、今日は率直なご意見をお聞かせください。

「安全な食」について思うこと

横尾:最近ではBSE*¹をはじめ、食に関して多くの問題が起きています。スタッフが定期的に調達先を訪問し協力工場の安全管理を行っていますが、お客さまに安心していただくための情報提供がまだまだ足りないと感じています。企業として「何を守るのか」という価値基準を明確にして情報提供できるように、情報公開基準も作る予定です。

辰巳:商品は企業と消費者を結ぶ一番のものです。消費者は商品を通してどんな会社かを判断しますので、情報をわかりやすく伝えることはとても大切だと思います。知りたい人が詳しい情報を手に入れられるような仕組みがあるといいですね。

清水:他のコンビニでも「安全」のアピールに力を入れていると感じます。私は具材の食品添加物が気になっています。

桃井:私も添加物やアレルギー*²に気をつけています。子供がアレルギーで、摂り続けると影響が出るものもあると聞いたので、よくわからないカタカナの添加物は敬遠します。お弁当よりも添加物が少なそうなものにぎりを選ぶことが多いです。

竹本:ミニストップでは、商品の加工途中で使用されるような表示義務のない添加物についても、わかる範囲で表示しています(→P8)。そのため表示が多くなって、ある意味損しているかもしれません。どんな方針で表示しているのかを説明しなければと感じています。

永田:私は飲食店を経営していた頃にもいろいろな食材を仕入れていましたが、添加物はほとんど何にでも入っています。飲食店ではそれを加工して「添加物入りです」と言って売ることはありませんが、表示の問題は難しいですね。

桃井:一生懸命に消費者の側に立ってきちんと食品表示をしているのに、その姿勢が伝わらないのはもったいないので、もっとアピールしてください。

竹本:アレルギーについては、仕入れ前に仕様書と原料規格書を提出してもらって管理し、表示義務のある5大アレルギー*³以外の物質も積極的に表示しています。

横尾:アレルギーは人によっては大きな問題です。製造ラインで混じらないよう、表示には現れない工程での細かい配慮も必要だと考えています。

永田：品質についてはミニストップ本部を信頼して販売していますので、私は店舗でできることとして清潔感を大事にしています。店内の床を磨く、食品のケースをよく拭くなど、清掃に力を入れてお客さまに安心感を持ってもらえるよう気をつけています。

清水：サービスには「ここまでやったから大丈夫」ということはありませんが、私も店舗担当になったら清掃には特に気をつけていきたいです。

辰巳：私は「すっきり、くっきり、ピカピカ、清潔」がコンビニの身上だと思っています。食品はもちろんのこと、棚の低いところに陳列してある商品まで気を配ってキレイにしてであると好感が持てますね。

横尾：センターから店舗への配送時間を短縮して鮮度を保つことも重要です。鮮度に気をつける、こだわりの食材を使うなど、「おいしさの理由が安全性につながる」のがベストですね。

辰巳：流通業は、消費者と同じ目線に立って消費者の声を上手にメーカーに伝えることができる立場だと思います。自分が納得できたことを伝え、納得できるものを販売すれば、きっと消費者の共感が得られると思います。



何をどう伝えていくか

竹本：例えば弁当やおにぎりに使う減農薬栽培米は、全ての生産者について生産履歴をとっています。集荷単位ごとに残留農薬とカドミウムについて独自の検査をするなど、安全にこだわっていることをもっと伝えたいと思っています(→P8)。ウェブサイトでの情報提供はだいぶ充実してきましたが、店頭でどう伝えるかはまだ難しい問題です。

辰巳：お客さまの滞留時間が短いコンビニで、環境情報や食品の安全性を伝えるには工夫が必要ですね。狭い場所に詳しい説明は無理なので「今回はこの商品」とピックアップして紹介したり、説明書きをレジ横に置いたりする方法もあります。

桃井：イトインコーナーをもっと活用してもいいですね。私が利用している食材の宅配では、カタログに生産者の写真や添加物の説明などが載っていて「情報が提供されている」という安心感があります。情報の積み重ねが信頼につながるんだと思います。

横尾：生産者の顔写真を出すところも増えていますね。大切なのは「売り場に至るまでの過程に自信を持って商品をお薦めする」ということです。加盟店オーナーさんに減農薬栽培米を生産している契約農家での稲刈りに参加してもらうと、毎回たいへん好評です(→P20)。

竹本：今は生産者と消費者と店舗、それぞれ顔が見えない

のが問題で、相互理解のための努力が大切だと思います。例えば弁当工場を加盟店オーナーさんに見てもらおうと「こんなにきっちりと衛生管理をしているんだ」と安心してもらえます。信頼していただくために、もっと情報公開することが必要ですね。

桃井：自分で情報を選別するのは難しいので、選んだものに情報を添えて提供してもらえると、すごくいいなと思います。

永田：店舗で流す商品告知のBGMで、もっと安全性やおいしさについて紹介したら効果的ではないでしょうか。お客さまに伝わりやすいし、場所もとらず、PRにもなります。

ミニストップの特色を出そう

桃井：安全なものを買いたいからミニストップへ行く、という動機付けになるような商品が1~2品でもあるといいですね。

清水：私は普段、玄米を食べています。私以外にも、玄米など少し違った種類のお米を使った商品を期待する人が増えているのではないのでしょうか。

横尾：福岡県のミニストップでは「棚田米で作ったおにぎり」を販売しています。福岡県の八女近郊には美しい棚田が残っていて、収穫量は多くないのですが清流を使ったいいお米が取れるんです。地産地

消^{*4}で棚田の保全にも協力できます。地域ごとに、こうした取り組みをもっと進めていきたいと考えています(→P20)。

辰巳：素敵ですね。棚田は見た目にも美しく、水や緑の保存の観点でも大切です。そのおにぎりを買ったお客さまも、棚田の保護・地域文化の保存に協力している満足感が得られると思います。安全・安心だけでなく、そういう「感動」も加えた情報をぜひ提供して欲しいです。

永田：コンビニにも個性があると思います。力を入れるところも店長それぞれでしょう。地域の特徴を出していけるように加盟店からも本部に提案していきたいですね。

横尾：「安全」をお届けするのが私たちの仕事です。きれいな売り場に安全な商品が置いてある、その積み重ねで信頼が生まれて「安心」していただけるのだと思います。今日はたくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

*1 BSE：牛海綿状脳症 (Bovine Spongiform Encephalopathy) の略で、いわゆる狂牛病。1986年に英国で確認され、日本でも2001年に最初の発生例が確認されました。

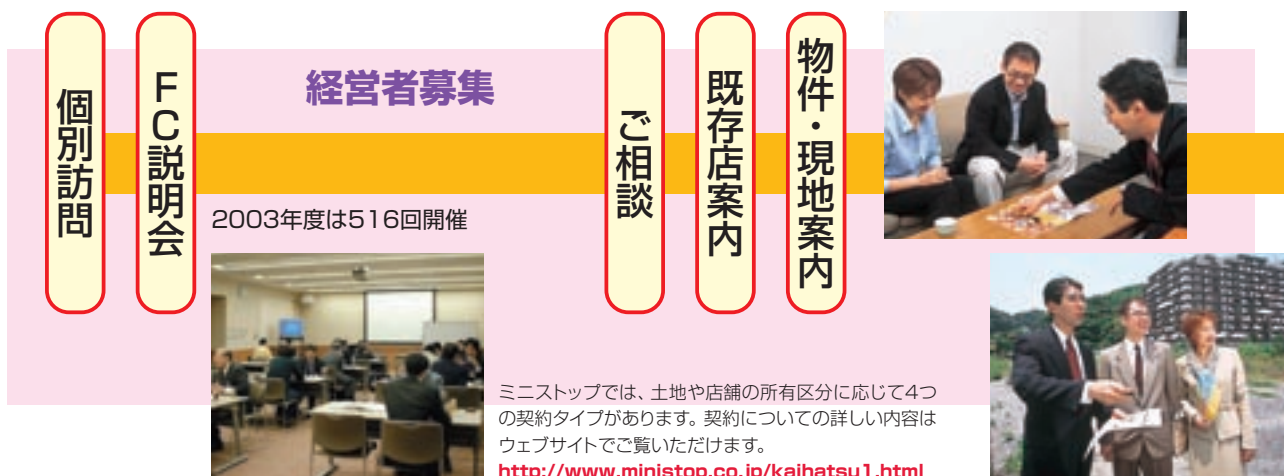
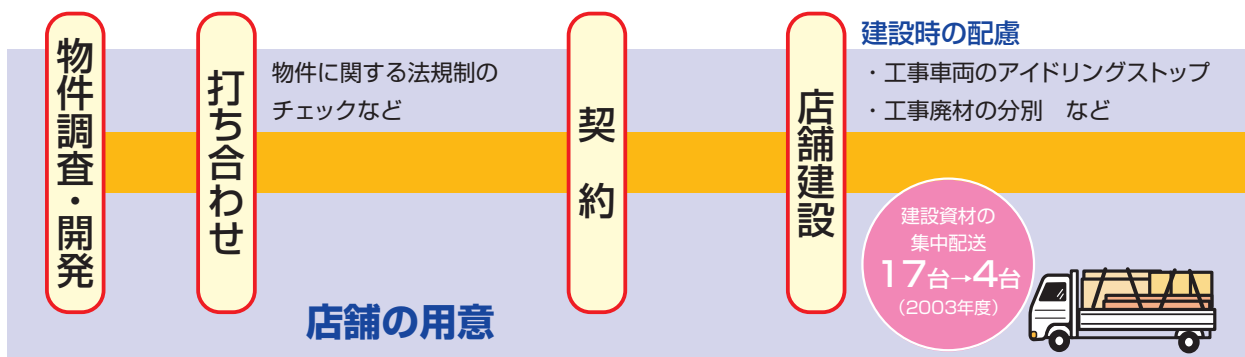
*2 アレルゲン：アレルギー症状を引き起こす原因物質のことで、人によって症状の原因となる物質は異なります。花粉や菌類、室内の塵、塵に含まれるダニ類のほか、食品として摂取したときに症状を引き起こす食物アレルギーも数多くあります。

*3 5大アレルゲン：小麦、そば、卵、乳、落花生の5品目(→P8)。

*4 地産地消：地元で生産されたものを地元で消費すること。その土地に合った新鮮な農林水産物を食べることができ、輸送によるエネルギー消費も抑えられます。地域の農業や食文化の理解にも役立ちます。

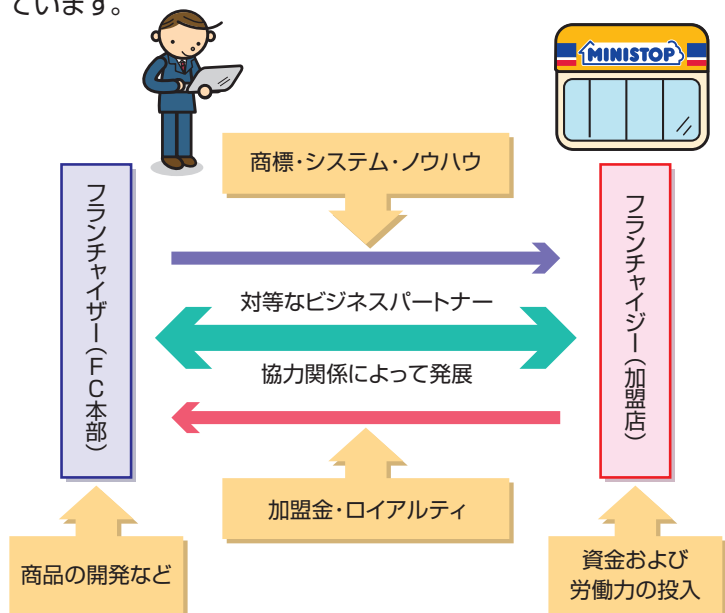
ミニストップはこうして生まれます

コンビニエンスストアが開店するまでにはたくさんのプロセスがあります。
それぞれの場面で商品やサービスだけでなく地域環境への配慮や雇用などの
社会的な責任を負い、ミニストップは地域のみなさまと共に歩みます。



加盟店と本部の関係

加盟店と本部で役割分担を行いながら、共同事業として取り組むフランチャイズシステムでコンビニエンス事業を展開しています。



多賀城高崎店
(宮城県多賀城市)
(2003年12月契約、
2004年6月開店予定)
桑鶴 真草さん
(オーナー)
桑鶴 則子さん
(マネージャー)

新規加盟者より

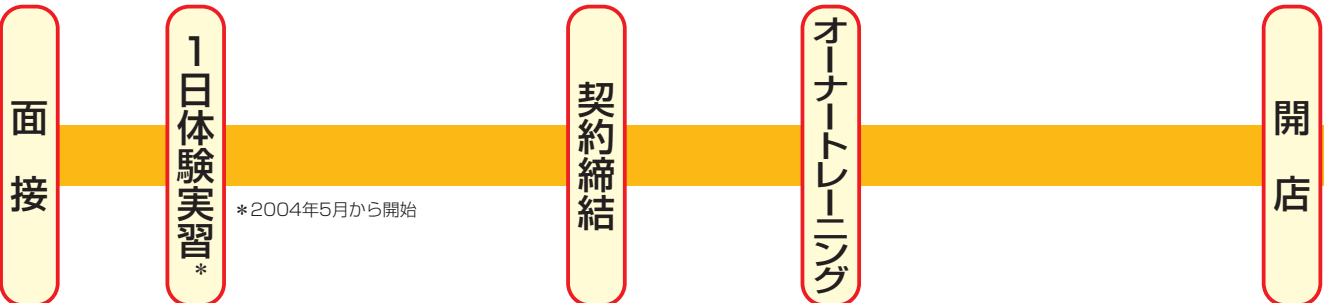
住宅用電材・照明器具販売の会社で仙台支店長をしていましたが、やりがいを持って納得のできる仕事がしたいと考えており、独立を決心しました。家族のある身ですから、ノウハウとシステムのしっかりしたフランチャイズチェーンに加盟したいと考えて応募しました。また、友人がミニストップを経営していますので、十分に話を聞いて契約を決断しました。



開発本部
東日本地域
東北開発部
菅井 節男

店舗開発者より

フランチャイズシステムでは、加盟店と本部が共に繁栄し続けることが使命であると考えています。私は、加盟を希望される方にフランチャイズシステムの理解と独立自営者としての動機付けをし、厳しい環境の中で勝ち抜ける店舗づくりを目指しています。また、ご家族や関係者の方にもフランチャイズシステムを十分ご理解いただけるようにつとめております。



* 2004年5月から開始



トレーニング概要

- ・経営理念、店舗運営など原則の理解
- ・レジ接客
- ・ファストフード加工
- ・商品発注の方法
- ・店舗実習



FC契約士認定制度

「加盟候補者に伝えるべきことを、マイナス情報や不利益となる内容も含め、全て隠さず、正しく伝えているか」を確認するミニストップ独自の認定制度です。FC契約士でない者が単独で加盟候補者へ契約に関する説明をすることは認められません。2004年2月から開始し、2004年8月までに開発部員全員が認定を受けることを目指しています。



ミニストップは、中小小売業振興法および中小小売業振興法施行規則、独占禁止法を遵守して加盟候補者とフランチャイズ契約を結んでいます。

左：「フランチャイズ契約はよく理解して」
(中小企業庁)
右：「フランチャイズ契約の要点と概説」

契約に関する件数(2002年度データ)*1

新規に営業を開始した加盟者の店舗の数 (既存店の移転による新規営業を含む)	181店
契約を途中で終了*2した加盟者の店舗の数 (既存店の移転による新規営業のための終了を含む)	86店
更新された加盟者の店舗の数	74店
更新されなかった加盟者の店舗の数	34店

訴訟件数(2002年度データ)*1

加盟者または加盟者であった者から提起された訴え	0件
当社より提起した訴え	0件

*1：2003年度データは「フランチャイズ契約の要点と概説」で2004年7月公表予定です。
*2：契約期間は満7年です。

お客さまに満足していただけるサービスの提供、
加盟者の生活を支えること、どちらもミニストップ本部の重要な責任です。
開店後にもさまざまな配慮をしています。

開
店



開店前1週間と開店後5日間
は開店アシスタントによる支援

1
カ
月
後
面
談

3
カ
月
後
面
談



- 加盟店：オーナー、マネージャー
本 部：開発担当者・ストアアドバイザー (SA)
- ・開店後の進行状況確認
 - ・カウンセリング
 - ・店舗オペレーションの確認
 - ・財務データの見方など説明
 - ・目標設定

営業店舗の取り組みは
P11～P12を
ご覧ください。



サービスの向上と加盟店の 安心のためのバックアップシステム

ミニストップでは店舗の開店後にも、お客さまにより良いサービスを提供するための研修や、安全・安心をお届けするための調査、加盟店が安心して経営に取り組めるようにするためのサポート体制、福利厚生制度を整備しています。

●教育・研修制度

サービス向上のため実践的でわかりやすい研修を行います。

- ・加盟店勉強会
- ・商品売場勉強会
- ・Yellowtail Program
(従業員責任者養成教育)
- ・ソフトクリーム
マイスター制度(→P6)

加盟店勉強会での意見交換



●安全・安心のための調査

安全な商品をお届けするためにミニストップ独自の調査を続けています。

- ・ショーケースの温度検査(1日3回)
- ・揚げ物油の酸化度チェック(1日2回)
- ・ソフトクリーム衛生検査(年4回・第三者による調査)
- ・店舗衛生調査(年2回・第三者による調査)
- ・フレンドリーキャンペーンで接客の確認(年2回・覆面調査)

●ストアアドバイザー (SA) によるアドバイス

さまざまな角度から経営をチェックし、アドバイスします。

●保守業務

店舗施設や什器など内外の全設備のメンテナンスサービスを斡旋します。

●防犯・警備のトータルシステム提供

犯罪や事故の未然防止を重視した警備システムを斡旋します。

●保証制度

契約タイプに応じて総収入または純利益の保証制度を完備しています。

●無償貸与制度

●自動融資制度

●最新の情報物流システム

●会計業務の代行

●福利厚生

※詳しい内容はウェブサイトでご覧いただけます。

<http://www.ministop.co.jp/kaiatsu/backupsys/>



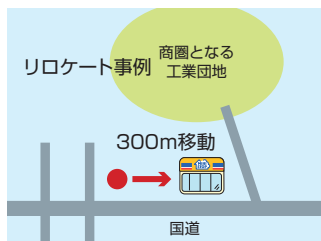
「ミニストップ共済会」パンフレット

オーナー相談窓口

24時間365日営業し、年々競争も激化する中で、経営者はさまざまなストレスや問題点に遭うことが多くなっています。1998年1月から設置しているオーナー相談窓口では、メンタルヘルスクア(心の相談)や財務・法律・後継者問題など、さまざまな相談を聞くことで経営をサポートしています。

改 装

移 転 (リロケート*)



*リロケート：同じ商圏内で店舗やオーナーが移動すること

閉 店

●建築廃棄物

改装、移転、閉店にともなう建築廃棄物をReduce(削減する)Reuse(再利用)できる工法を促進しています(→P14)。

閉店する場合の
建築廃棄物は
1店舗あたり
約10トン

閉店時の廃棄物



ソフトクリームマイスター制度

ミニストップの代表商品であるソフトクリームを、いつでも安定した品質でお客さまに提供できるよう、知識と技術を身につけた従業員を「ソフトクリームマイスター」として本部が認定しています。各地区で年2回行われる商品売場勉強会で認定を行い、2003年9月から2004年3月末までに1,064名のマイスターが誕生しました。



マイスターに贈られるバッジ

1. 規定量通りの加工ができる(技術)
2. 機械の仕組みを知り、適切に調整ができる(知識)
3. 従業員同士で、注意、指導ができる(リーダーシップ)



営業本部
東京営業部
立川・八王子地区
松井 哲郎

ストアアドバイザー(SA)より

我々の活動は加盟店との共同活動で成り立っていますので、経営指導する時には加盟店の負担をなるべく軽減することや、内容をわかりやすく伝えることを心がけています。また、お互いに常に頭の片隅で環境を意識することで、何気ない話をきっかけに環境に配慮した行動につながっています。私自身は、加盟店訪問の際の資料に再生紙を使用する、両面印刷をする、パソコンの活用でペーパーレスにするなど気をつけています。

法律を遵守すると共に 関連する法律にも配慮しています。

店舗に関わる環境関連の法律

法区分	法 規 制	対 象 項 目
廃棄物	廃棄物処理法	廃棄物全般
リサイクル	容器包装リサイクル法	販売用資材・プライベートブランド商品の容器包装
水質	浄化槽法	営業店舗
防災	消防法	営業店舗(防火管理者・消火器の設置)
大気	自動車NOx・PM法	配送車
リサイクル	食品リサイクル法	食品廃棄物

関連のある主な法律

法区分	法 規 制	対 象 項 目
騒音・振動	騒音規制法	店舗(建設から閉店まで)
騒音・振動	振動規制法	店舗(建設から閉店まで)
リサイクル	資源有効利用促進法	販売商品全般およびファストフード資材
リサイクル	建設資材リサイクル法	改装・閉店店舗
水質	下水道法	営業店舗
大気	オゾン層保護法	厨房内冷凍冷蔵庫・空調機・オープンケース
大気	悪臭防止法	営業店舗
表示	改正JAS法	販売商品
有害物質	家庭用品規制法	販売商品

*その他、店舗所在地の条例も遵守しています。

ソフトクリームマイスターの声

ソフトクリームの加工はもちろん、業務全般に自信が持てる。

(埼玉県朝霞市・朝志ケ丘4丁目店・福家店長)

他のアルバイトへの指導も自主的に実施。

(埼玉県朝霞市・朝志ケ丘4丁目店・担当SAより)

オーナー不在時でもその場でソフトクリームのクレームに対応。きちんと説明し、お客さまにご納得いただきました。

(岐阜県岐阜市・岐阜東改田店・山下さん)

お客さまからご指名を受けることも!

(千葉県松戸市・松戸殿平賀店・担当SAより)

もう一度、原点に返って

ミニストップ株式会社 代表取締役社長

横尾 博



地域のお役に立つ店舗に

最近、企業の社会的責任が改めて問われています。コンビニエンスストアの原点は「店」ですから、地域社会に対して果たすべき役割を一店一店がしっかり認識し、意識を定着させていくことが重要だと考えています。ミニストップではそれぞれの加盟店に、地域のお客さまに対し「どうお役に立っていくのか」を宣言してもらおうと準備を進めているところです。各加盟店が宣言をして、本部がそれをバックアップしていきます。

全ての加盟店が高いレベルで同じサービスを提供できるよう、教育制度の見直しも進めています。特に開店前の教育には従来の3倍の時間をかけ、開店時から質の高いサービスを提供できるよう改善していきます。

「安心」をお届けするために

食の安全性について、お客さまの関心は非常に高くなっています。ミニストップでは海外からの調達を、できるものから自社での直接輸入にし、より責任を持って商品の安全性を確認しています。従来から協力工場などの労働環境や人権配慮に問題がないかをスタッフや私自身ができる限り現地へ足を運んで確かめています。これからも自信を持って安全な商品を提供できるよう、書類だけではなく一歩踏み込んだお取引先のチェックを行っていきます。

同時に、安全性の情報をお客さまに伝えていくことも大変重要です。コンビニエンスストアの限られたスペースの中で何をどう伝えればよいかは難しい問題ですが、いろいろな方からご意見をいただきながら工夫を重ねています。現在、加盟店向けに産地訪問を開催していますが(→P20)、今後はお客さまにも参加していただける仕組みを整えていく予定です。産地や工場を見てミニストップの取り組みを知っていただくことで、安心が生まれると思います。

「スピードを上げる」をテーマに

2003年度には韓国のミニストップを子会社化し、フィリピンの店舗も100店目前です。1店舗や1社ではできないことも連携を強化すれば効率的にできるでしょう。環境

配慮やコスト削減など共通のテーマについても、国内外を問わず協力していきたいと考えています。また、本業を通して地域の文化や環境の保全に協力するため、福岡県の棚田米(→P2)のような取り組みもさらに増やしていきます。

現在もいろいろな取り組みを進め、少しずつ成果も上がっていますが、2004年度は全てにおいて「スピードを上げる」ことがテーマです。成果や実績を早く示せるように、何事も実行速度を上げて積極的に取り組んでいきます。

ミニストップの経営ビジョン

- | | | | |
|--|---|--|--|
| ミッション | <ul style="list-style-type: none">・ミニストップはお客さま一人ひとりの毎日の暮らしに健康、安心、便利をお届けします。・ミニストップはコンビネーションにより差別化し、独立を志す人々とともに成長、繁栄を目指します。 | | |
| ビジョン | 21世紀はミニストップの時代、国内外でクオリティNo.1のおいしい便利なコンボストア、ミニストップブランドを確立する。 | | |
| バリュー | <table border="0"><tr><td><ul style="list-style-type: none">・お客さま第一・現場主義・人間尊重・そして、楽しく</td><td><ul style="list-style-type: none">・変化への対応・地域との共生・公正 (Fairness)</td></tr></table> | <ul style="list-style-type: none">・お客さま第一・現場主義・人間尊重・そして、楽しく | <ul style="list-style-type: none">・変化への対応・地域との共生・公正 (Fairness) |
| <ul style="list-style-type: none">・お客さま第一・現場主義・人間尊重・そして、楽しく | <ul style="list-style-type: none">・変化への対応・地域との共生・公正 (Fairness) | | |

ミニストップ 環境方針 改訂第3版

私たちはお客さま・加盟店・お取引先と共に地球環境を考えます。私たちは循環型社会の構築を目指して共に学び、自らの役割を自覚して行動するようつとめます。

継続的改善

私たちは環境マネジメントシステムを継続的に改善し、この環境方針に基づいて環境目的・目標を設定し、定期的に見直します。

私たちは事業活動の中でグリーン調達・省資源、省エネルギー、再利用・再資源化、廃棄物削減などにつとめます。

法の遵守

環境保全に関する法規制、およびミニストップが同意する環境上の要求事項を遵守します。

安全・安心な商品・サービスの提供

多様化するお客さまのライフスタイルに配慮し、安全・安心な商品やサービスの開発・選定につとめます。

環境保全活動

緑化などの環境保全活動に積極的に取り組みます。

方針の周知

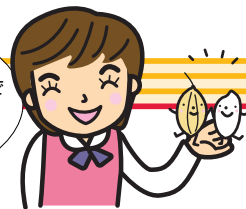
この環境方針は従業員のみならず、ミニストップの事業活動に関わる全ての人たちに広く知らせます。

方針の公開

この方針は広く一般に公開し、適切な情報提供につとめます。

もっと「安全」を伝えたい

環境担当の岡村です。
ミニストップでは、調達から販売まで
安全な商品をお届けするための
努力を積み重ねています。



容器に入れたり包装されたりした食品は、その内容についてわかりやすくラベル表示するよう法律で定められています。ミニストップでは、定められた項目以外についても積極的に情報を公開しています。

栄養成分表示

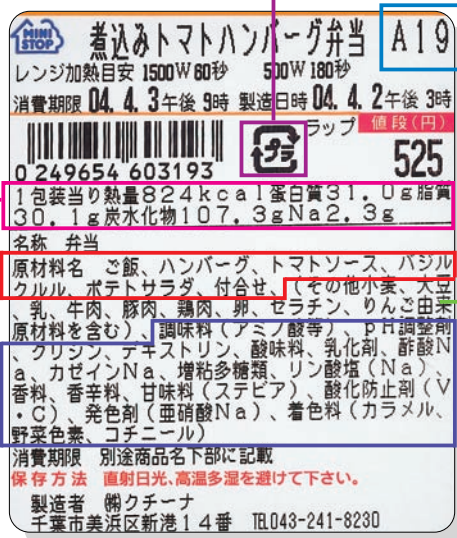
栄養表示基準に従って、1包装あたりの熱量・たんぱく質・脂質・炭水化物・ナトリウム量を表示しています。

原材料表示

改正JAS法の品質表示基準に従って、商品中で原材料に占める重量割合の多い順に表示しています。

食品添加物

食品衛生法に従って、商品中で原材料に占める重量割合の多い順に表示しています。



「煮込みトマトハンバーグ弁当」の商品ラベル

容器包装の識別表示

資源有効利用促進法に従って、「紙」や「プラスチック」など容器包装の分別回収を促進するための材質識別表示をしています。

販売期限の表示

店頭販売の期限です。安全な商品だけを販売するために店舗が確認し、消費期限の前に売場から下げています。

アレルゲン*表示

食品衛生法により、アレルギー症状の原因となる食品は、微量であっても表示することが義務付けられています。

アレルギー物質を含む食品

義務表示 (5品目)	小麦、そば、卵、乳、落花生
任意表示 (19品目)	あわび、いか、いくら、えび、オレンジ、かに、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、さけ、さば、大豆、鶏肉、豚肉、まつたけ、もも、やまいも、りんご、ゼラチン

*アレルゲン：アレルギー症状を引き起こす原因物質のこと。まれに生命の危険がある激しい症状が起きる人もいるため注意が必要です。

ミニストップ独自の取り組み

ミニストップでは、表示義務のない「加工途中で使用され最終的な商品への影響がほとんどない添加物」(キャリアオーバー)も、わかる範囲で積極的に表示しています。義務表示の5品目に加え、任意表示の19品目も表示しています。

*表示義務のないファストフードについても、2003年7月からウェブサイトにて義務表示5品目の情報公開を始めました。

●ミニストップのこだわり「減農薬栽培米」

ミニストップの減農薬栽培米は、契約農家でミニストップ独自の栽培指導基準に基づいて生産されています。

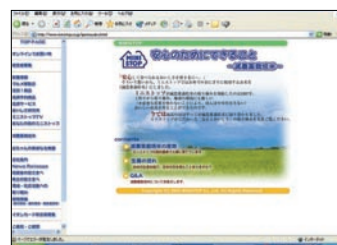
一般的な減農薬の商品は農薬の散布回数が基準になっていますが、ミニストップではさらに厳しく、農薬の種類・成分を細かく確認して管理しています。

また定期的に、市販されている商品を購入して味のチェックも行っています。産地から販売まで、全ての履歴を管理しているからこそ、自信を持ってお届けできるのです。

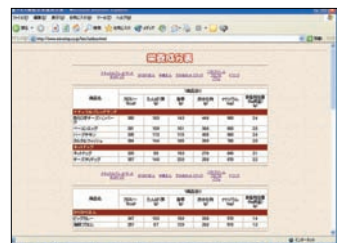


●ウェブサイトでの情報提供

ウェブサイト「グルメ展覧会」のページからは、ファストフードの栄養成分表やアレルゲン物質の一覧表をご覧いただけます。アレルギーや健康・ダイエットが気になる方はぜひご利用ください。また、減農薬栽培米を詳しく解説したページでは、稲の生長について学ぶこともできます。



<http://www.ministop.co.jp/gennoyaku.html>



<http://www.ministop.co.jp/tennew.html>
減農薬栽培米と栄養成分表のページ

グリーン商品を増やすために

お客さまの声を今後の商品選びや開発に反映させるため、商品担当者2人がお客さま代表者にお話を伺いました。

*この対談は2004年1月14日に実施しました。所属等は実施日のものです。

現状で気になったのは

辰巳：ミニストップに限らず、コンビニではタオルがビニール包装で売られていて、包装材がもったいないなと感じます。

島袋：タオルのような商品は、汚れとの戦いという問題があります。本当は、裸包装にしたい商品が他にもたくさんあるのですが…。



辰巳：それから、トイレットペーパーは流して使い切るものだから古紙で十分というのが私の持論です。普段から古紙率100%のものしか使わないのですが、店内には無かったようです。

五十嵐：コンビニの場合は売場面積が限られていますので、多くの種類を置けず難しいところですよ。

島袋：ちょうど今年、古紙が100%のものや50%のものなどを、採算・使い心地・環境への配慮を考えて検討を続けてきました。間もなく店舗に並ぶ予定です。



辰巳：上質の紙であっても、使っている原料が環境にやさしければいいと思います。古紙リサイクルは、本当は環境に良くないという意見もあります。いずれにしても、ミニストップさんがこだわりをもって紙を選び、素材の産地や出所をしっかりと表示していくことが大切だと思います。

もっとグリーン商品を増やすには



五十嵐：イオンのプライベートブランドであるトップバリュは環境に配慮していますので、店内で扱う比率を上げていきます。お客さまが特に意識しなくても、トップバリュを購入することで、自然に環境配慮につながっていくと考えています。

辰巳：私どもの協会では環境ラベルの普及に取り組んでい



対談でのご意見を参考に共同開発を決めた再生紙100%のトイレットペーパー



エコマーク認証を受けた
トップバリュの金封



ます。商品を、原料の調達、製造者、運搬、そしてお客さまの手元でどのように使われ、廃棄されているかという各段階に分けてチェックし、どの部分が最も環境に負荷を与えているかを考えます。どの時点での負荷が大きいかの情報をオープンにすることも

大切です。また、メーカーに対して提示する「環境に関する発注基準書」があれば、それをオープンにするとお客さまも安心できると思います。メーカーと共に環境に配慮していただく姿勢が大切ではないでしょうか。

島袋：基準作りは我々の仕事です。環境にやさしい商品をメーカー任せにするのではなく、こちらから働きかけていきます。



社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
理事 環境委員会委員長
辰巳 菊子氏



商品本部
グロサリー商品部
島袋 嘉之



商品本部
グロサリー商品部
五十嵐 哲行

環境に与える影響が少なく、
健康や安全に配慮した
環境配慮型の商品を
グリーン商品と呼んでいます。



ミニストップのグリーン商品

ミニストップが考えるグリーン商品とは、下記の基準を満たしたものです。この基準を基にして、グリーン商品を毎月3アイテム増やすことを目標に、積極的に品目の拡大に取り組んでいます。

ミニストップのグリーン商品基準

1. エコマーク認定商品
例：再生プラスチックを使ったボールペン
2. グリーン購入ネットワークのガイドラインに従った商品
例：バガスの使用比率を高めて木材原料を減らしたティッシュペーパー
3. 1と2に含まれないが、既存品に比べて少しでも環境に配慮している商品
例：中の台紙に古紙配合100%の再生紙を使ったパンティストッキング

●主なグリーン商品

文房具には、ノート類やミニストップオリジナルの履歴書などエコマーク認定商品があります。家庭雑貨では、イオンのオリジナルブランド「トップバリュ」を中心に、安全や環境に配慮しながら、お求めやすい価格の商品を増やしています。ミニストップオリジナルのタオルは、蛍光増白剤を使用せず無漂白です。お客さまに環境にやさしい商品であることをお知らせするために、エコマークと共に環境配慮のポイントも表示しています。これからもグリーン商品を増やし、その情報をお客さまにわかりやすく伝える努力を続けていきます。



リユース・リサイクルされているトップバリュの使いきりカメラ(5月より順次発売)

Q & A

環境ラベルって？

商品やサービスの環境に関する情報を、パッケージなどを通じて消費者へ伝えるものです。環境ラベルは法律で決められたものではありませんが、ISO(国際標準化機構)で3つのタイプが定められています。
タイプⅠ：第三者機関が自主的で多様な基準に基づいて認定したシンボルマークで表す(エコマークなど)
タイプⅡ：企業が自己宣言するもの(マークはさまざま)
タイプⅢ：製品の資源採取から廃棄後までのライフサイクルで環境に与える影響をデータで公表するもの(エコリーフなど)



エコマーク

●グリーン商品数の推移

コンビニエンスストアは商品の入れ替わりが激しいため経年比較は難しいのですが、アイテム数は毎年確実に増えています。

グリーン商品登録アイテム数

2001年度	44
2002年度	49
2003年度	65

●グループのオリジナル商品

イオンでは、安全と環境に配慮して安心できる商品を、オリジナルブランド「トップバリュ」として提供しています。安心品質&お買い得価格の「トップバリュ」、自然の力を活かして育てた農・畜産物とその加工食品の「グリーンアイ」、おいしさ、素材、機能などに特にこだわった「SELECT」、リサイクル資源を利用した「共環宣言」、の4つのブランド展開です。



グリーンアイのタスマニアビーフは、世界で最もクリーンな自然環境を維持しているといわれるオーストラリア最南端のタスマニア島育ちです。成長ホルモン剤や抗生物質および肉骨粉や遺伝子組み換え飼料などを一切使わず、牛本来の姿で地道に育てています。お中元に人気のメロンも、グリーンアイなら安心して贈りいただけます。北海道の置戸有機會が、土の健康にもこだわって手間暇かけた有機栽培の赤肉メロンです。グリーンアイの蒲焼さうなぎは、鹿児島の指定養殖場で、抗生物質や合成抗菌剤を一切使用せず育てられています。生産履歴がわかる安心システムで、有機食品の認証団体から水産物では初めて「無投薬水産養殖品」の第三者認証を取得しました。



イオンのプライベートブランド「トップバリュ」



生活の基本アイテムを、安心品質とお買い得価格でお届けする衣食住ブランドです。



自然の力を生かして育てた農・畜産物、それらを原料とする加工食品のブランドです。



おいしさ、素材、機能などに特別こだわった、特選高品質ブランドです。



リサイクル資源を利用したエコロジー商品ブランドです。

一目でわかるお店の取り組み

ミニストップはコンビニエンスストアの中でファストフードが買えるユニークなコンボストア*です。店内で調理してお客さまに「できたてのおいしさ」を提供しています。そのため電気や水などの使用量が増えますが、環境負荷を少しでも減らすよう店舗ではさまざまな環境配慮をしています。Reduce（削減する）、Reuse（再利用する）、Recycle（再資源化する）、Reasonable Treatment（適正処理）の4Rを中心に、ミニストップの取り組みをご覧ください。

*コンボストア：コンビニエンスストアにファストフード店の要素をプラスした店舗のこと。ミニストップによる造語。

主な取り組み事例

Reduce（削減する）

- 割り箸使用量の削減
- 書類の電子化による紙使用量の削減
- 声かけによるレジ袋の使用量削減

Recycle（再資源化する）

- 廃油のリサイクル
- 店頭でのごみの分別回収
- 東京23区や名古屋市などでのペットボトル回収協力
- コピー、FAXトナーカートリッジのリサイクル

Reuse（再利用する）

- プラスチックコンテナの利用
- コピー用紙の裏面利用
- 社内連絡用に封筒の再利用

Reasonable Treatment（適正処理）

- ごみやフロンの専門業者への委託による適正処理

1店舗あたりの割り箸・レジ袋使用数

	2001年度	2002年度	2003年度
割り箸(膳)	57,554	58,181	56,265
レジ袋(枚)	227,000	227,633	249,917

*エリアフランチャイズ含む

モデル店舗のInput-Output



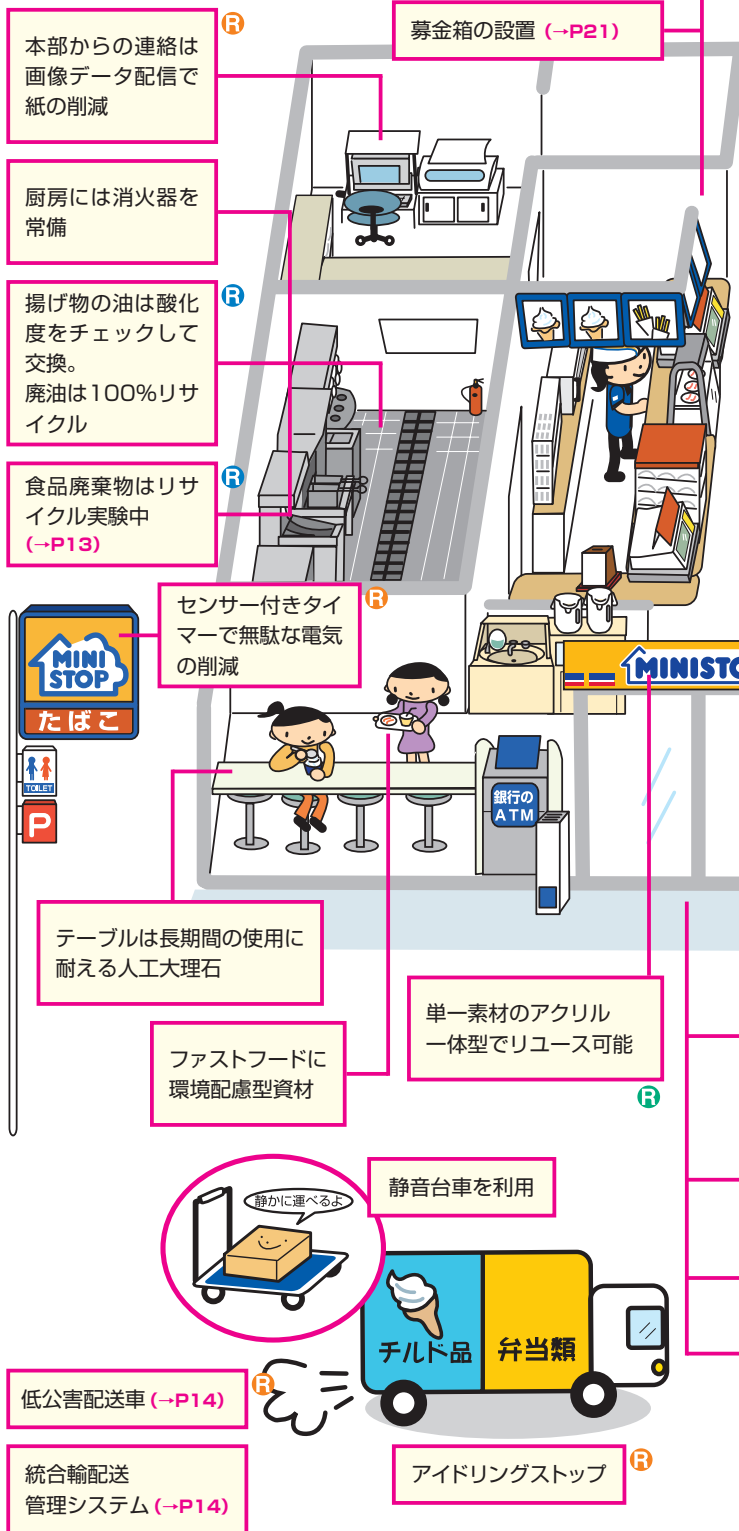
一般的なお店の平均値

店舗面積	150m ²
取扱商品数	約3,000
1日あたり来客数*1*2	821人
1日あたり売上高*1	457千円

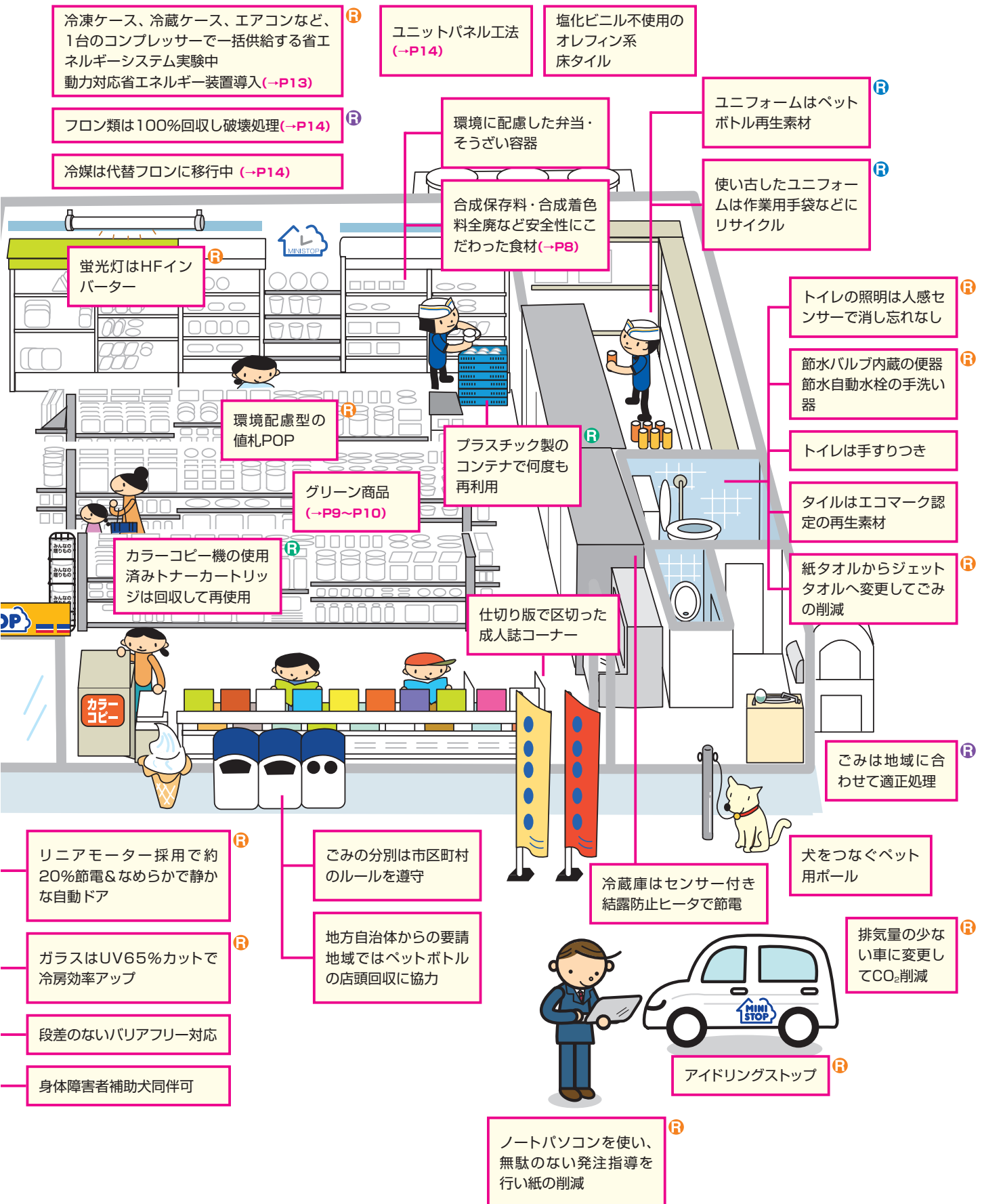
*1：2004年2月期

*2：新店舗データを除く

- R Reduce** 削減する
- R Reuse** 再利用する
- R Recycle** 再資源化する
- R Reasonable Treatment** 適正処理



環境以外にも、
社会的な配慮など
多くの取り組みを
しています。



まだまだあるお店の取り組み

店舗が生まれるとき、毎日の仕事、もしもの時への備え。店舗ではお客さまから見えなくてもさまざまなことに取り組んでいます。

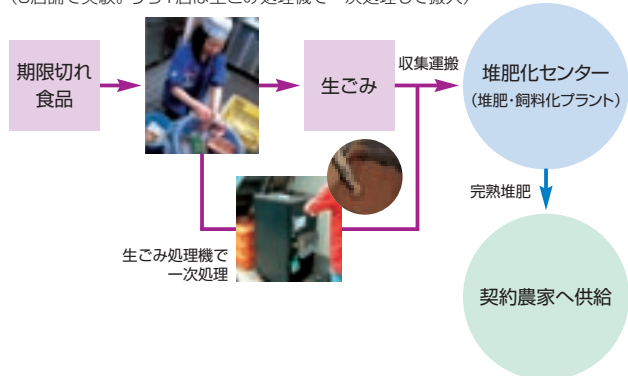
生ごみリサイクルの実験をしています

廃棄物分別の流れ



実験中の再生利用(堆肥化)のしくみ

店舗で分別した生ごみを、銚子の堆肥化センターへ搬入し完熟堆肥化。(3店舗で実験。うち1店は生ごみ処理機で一次処理して搬入)



●コンビニエンスストア共通の課題に共同で取り組む

コンビニエンスストア5社が共同で設立した株式会社イーブラット*では、5社合計での規模を活かした事業、実験を行っています。

コンビニエンスストアは非常に電気消費量の多い業態で、お客さまのためにサービスを充実させていくとどうしてもCO₂排出量が増えてしまうのが各社共通の悩みです。そこで、特に環境・省エネルギー分野の取り組みが重要な共通課題との認識から、イーブラット内で省エネ研究会を立ち上げ、省エネルギー機器や環境対応製品について2002年4月より企画開発を行い、共同実験をしました。

実験内容は、冷蔵・冷凍ケース、空調機、店内照明、店外照明、厨房など機器別に電力消費量を計測し、機器や制御方法の省エネルギー性能を比較するものです。ミニストップにおいても2003年度、実験店にて冷蔵・冷凍機器の制御システムを導入し、その効果を監視してきました。現段階において電力消費量は、電磁弁同期制御システムで12.5%削減、防露コントローラ制御システムで71.9%削減、店舗全体では6%削減することができました。

2004年度に入り、あらたな実験もスタートしております。今後、全体の電力消費量を20%削減することを目標として活動をしていきます。

*イーブラット：ファミリーマート、サークルケイ・ジャパン、サンクスアンドアソシエイツ、スリーエフ、ミニストップの、コンビニエンスストア5社によって2000年4月17日に設立された企画会社。主に通信インフラ、決済システム、共同調達の3分野で、事実上の業界標準となる仕組みづくりを目指しています。



開発本部
建設部 部長
渡辺 勝巳

Q & A

食品リサイクル法って?



食品廃棄物は年間約2,000万トン。現在は食品廃棄物の約9割が焼却・埋立処分されていて、最終処分場の残余年数は逼迫しています。2001年に施行された食品リサイクル法では、発生の抑制や減量化と再生利用を促すために、食品関連事業者は「2006年度までに再生利用等の実施率を20%に向上させること」と定められています。



CA推進室
環境推進担当
野口 秀明

リサイクル実験担当者より

2003年4月から、営団赤塚駅前店(東京都・板橋区)など東京都内の3店舗で、生ごみリサイクルの実験を続けてきました。販売期限切れ食品を分別分解して堆肥センターへ搬入する実験で、分別作業、店舗での生ごみ保管状況、廃棄量、コストなどを検証した結果、解決すべき問題点がはっきりしてきました。2003年5月にはバイオ型処理機、2004年2月には減量式処理機をそれぞれ1店舗に導入し、性能実験も実施しています。2004年度は、手間のかかる分別作業が発生しない方法での実験を開始する予定です。

CO₂排出を減らす
配送につとめています。
また安全・安心な町づくりに
協力しています。



●環境に配慮した店舗づくり

1. フロンの全面切り替えと適正処理で地球温暖化防止

全機器のフロンを、比較的オゾン層破壊係数の小さい代替フロんに切り替える処理が2004年4月に完了する予定です。回収・破壊処理は、行政から認可された専門業者に委託して適正に行っています。

回収・破壊したフロン量(単位:トン)

	2001年度	2002年度	2003年度
R22(代替フロン)	0.897	2.880	2.640
R502(特定フロン)	0.137	0.110	0.560

2. ユニット工法の採用で廃棄物削減

工場内でユニットを製作して建設現場で組み立てるユニット工法は、建築廃材を削減でき、移設も可能な環境負荷の低い工法です。



2003年度の
ユニット工法は
23店舗

3. 無駄のない電力利用で省エネルギー

空調機や冷凍機を自動制御する機器を設置すると、高い節電効果が得られます。平均的な店舗で、年間約10,000kWhの節電(608m²の植樹に相当)になるため、機器の導入を推奨しています。

ただいま実験中です

- ・ スチール工法(廃材約20%削減)
- ・ 貯水システム(トイレ用水の約70%に雨水利用)
- ・ エコフード(厨房の匂い防止&空調機利用効率約10%向上)
- ・ ソーラー式小屋裏換気システム(使用電力約10%削減)
- ・ ソーラー式LED採用駐車場乗り入れサイン(電気不使用)
- ・ 手洗い場の自動水栓化(約50%の節水)

●店舗への配送も環境配慮

物流センターから店舗への商品配送では、配車支援システムで最短の配送ルートを探し、効率的な配送でCO₂の排出削減につとめています。さらに、無線通信とGPS(全地球測位システム)を活用した統合輸配送管理システムでは、配送車1台1台の庫内温度やアイドリングストップなどの状況をリアルタイムで把握でき、配送商品の安全性も向上しました。また、1998年からはCO₂排出量が少ない天然ガス(CNG)車の導入も進めています。配送車の大半はディーゼル車ですが、全て東京都や埼玉県が2005年に強化する予定の排出ガス規制を下回っています。

1店舗1日あたりの配送車走行距離	56.8km
統合輸配送管理システム導入車	280台(前年度比33台増加)
天然ガス(CNG)車	8台(前年度比増減なし)

●地域に起こった災害に対して

ミニストップは、コンビニエンスストアとしての特性を活かした役割を果たしています。災害発生時には、人命を優先しつつ「店舗の安全性」「地域の安全性」「運営上の条件」などを十分に考慮した上で、可能な限り営業を継続、あるいは再開する努力を行います。

例えば、1995年の阪神淡路大震災時には、震災翌日から非常食を中心とした食品を各店舗へ納めて被災者の方へお渡ししたり、救済活動を行う方へおにぎりなどをお届けしました。また、ミニストップなどグループ全体で募金活動を行い、2億3,000万円を神戸市へ寄付しました。2003年8月に起こった宮城県北部地震では、店舗への被害はありませんでしたが、被災地域の店舗で地元の復興のために募金活動を行い、日本赤十字を通して48,976円を寄付しました。

●地域を拡大しセーフティステーションを試験実施

コンビニエンスストアには、利便性の提供だけでなく社会基盤としての役割が期待されています。ミニストップは、(社)日本フランチャイズチェーン協会の一員として警察庁や自治体と共同で、青少年の健全育成や防犯対策など、安全・安心な町づくりの拠点「地域のセーフティステーション(生活安全拠点)」となるよう仕組みづくりをしています。2003年春は佐賀県と川崎市、2003年11月から2004年1月までは東京都、横浜市、福岡県を加えた地域で試験的に実施しました。2004年6月からはさらに地域を拡大して再び実施する予定です。



●未成年者へは酒類・タバコを販売しません

未成年者に酒類・タバコを販売しないために、さまざまな取り組みをしています。子供たちが夏休み、冬休みに入る前の年2回、全店舗に対して対応マニュアルや店員の名札下に貼り付ける宣言カード、ポスターなどを配布し、対処法なども具体的に説明しています。2003年には狛江和泉本町店がその徹底した取り組みを認められ、東京都の「東京都青少年の健全な育成に関する条例」で表彰されました(→P16)。



対応徹底のためのマニュアル

お店独自の取り組み

全国のミニストップでは、それぞれの店舗が地域のお役に立とうと独自の取り組みをしています。
ここではほんの一部を紹介します。

小学校のアルミ缶回収に協力しています。

古川清水店

(宮城県古川市)

大友 政弘オーナー

地元の岩出山小学校では、アルミ缶を集めています。集めた缶をリサイクル業



喜ぶ子供の姿を見ると嬉しくなります

者に買い取ってもらい、そのお金で車椅子を買って施設に贈るという活動をしているのです。素晴らしい活動なので、私たちも出来るだけ協力をしたいと思いました。そこで、店舗のごみ箱に集まった缶の中からアルミ缶だけを選び出して、小学校へ届けています。ごみとして捨てられた缶が、善意の贈り物になるのです。子供たちにとって、教育の面でも意義のある取り組みだと思います。この協力を、これからもずっと続けていきます。

市のエコショップ認定を受けました。

姉ヶ崎迎田店

(千葉県市原市)

岡部 裕オーナー

市原市には、ごみの減量・再資源化の活動の一環で、エコショップ認定制度があります。



(左から)岡部行利店長、岡部裕オーナー

2003年に認定基準が改正されて厳しくなったのですが、私たちは「コンビニは環境に配慮していないと誤解されやすい。だからこそ認定を目指そう」と頑張りました。そして市内のコンビニエンスストアで初めてエコショップに認定され、市長から認定証と共に「コンビニが厳しい状況の中、チャレンジしてくれる店があり非常に嬉しい」との言葉をいただきました。喜びと同時にコンビニ初の認定店という責任の重さも感じます。

毎年、中学生の職業体験を受け入れています。

松伏赤岩店

(埼玉県北葛飾郡松伏町)

山崎 猛 統括オーナー

「地域とのつながりなくして店舗の繁栄なし」という考えを皆で共有しています。毎年受け入れている中学生の職業



オーナーを支える従業員のみなさん

体験では、挨拶の大切さなど小売業(接客業)のことをしっかり学んでもらっています。父兄さんにも好評です。また、ごみの削減や清掃にも取り組んでいます。ごみになるような包材は一声運動で削減につとめ、分別も徹底しています。通勤中にも、ミニストップのマーク入りの袋などを見つけたら拾うよう気をつけています。こうした私たちの努力が認められ、町のエコショップ第1号に認定されました。

ごみの削減に力を入れています。

大宮吉野町店

(埼玉県さいたま市)

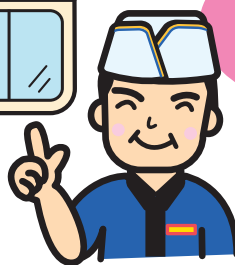
原田 章二オーナー

毎日毎日、ごみ箱からあふれんばかりに溜まるごみの山を見て、全国のコンビニエンス



活動の中心となっている原田裕子さん(中央)

ストアで同じ状況だとしたらどうなるのだろうと考えました。このままでは持続不可能だと思い、できることから始めています。まず、電気、水道、紙などの利用を減らしました。お客さまにも、アイドリングストップの看板や箸・袋の一声運動でご協力をお願いしています。自分たちもマイ箸やマイバッグを持参するよう心がけています。環境問題の情報にも敏感になりました。



地域に根ざした店舗を
目指しています。

公園の清掃を毎日続けています。

川口江戸店

(埼玉県川口市)

高津 俊之オーナー

オープンして間もなく、
店舗の斜め向かいの公
園に「ミニストップのも
のと思われるごみが散



オーナーを中心に活動しています

乱している」とのクレームを受けました。ごみ問題はコンビニエンスストアの社会的な責任の一つだと思うので、それから毎日30分ほど公園を清掃しています。地域に根ざして商売をしているので、地域に貢献したいという気持ちもあ



毎日清掃している公園

って、大変ですが続けています。子供連れの方や、ゲートボールで公園を利用なさる方々から「いつもありがとう」と感謝の言葉をいただくと嬉しいですし、励みになっています。

車椅子のお客さまのために 呼び出しブザーを設置しています。

所沢美原町店

(埼玉県所沢市)

飯塚 基久オーナー

近くに国立身体障害者
リハビリセンターがあ
るので、通常の店に比
べると車椅子のお客さ



センターの方々の憩いの場になればと思います

まが多くいらっしゃいます。商品を取るにも、上の方には手が届かない場合があると思い、気になっていました。そ



店内に設置したブザー

こで、横尾社長が来られた際に相談したところ「ブザーを付けて必要なときに呼んでもらおう」ということになり、店内の合計5ヵ所に設置しました。実際にブザーが鳴る回数は、まだそれほど多くはありませんが、車椅子の方にも利用していただきやすい店舗になったと思っています。

「東京都青少年の健全な育成に関する条例」 の表彰店舗に選ばれました。

狛江和泉本町店

(東京都狛江市)

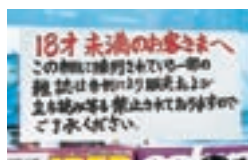
桜井 俊雄オーナー

有害図書の区分陳列や、酒・タバコ類を未成年者に販売しないための工夫などが評価されたのだと思います。店の内外でたま



確固たる意思で
粘り強く取り組んでいます

る若年層への対応は難しいですが、お客さまだということを忘れずに、でも毅然とした態度で粘り強く注意します。親のお使いで酒やタバコを買いに来る子供には、販売できない旨を親に向けて説明した紙を渡して理解してもらって



大きな文字で注意書き

います。店の健全化の第一歩はごみ箱をきれいにすることです。私の店では掃除専門のアルバイトを雇って、ごみ箱も店も周辺も、徹底して掃除しています。

(写真提供：月刊コンビニ)

中学生に体験学習の場を提供しています。

王寺町本町店

(奈良県北葛城郡王寺町)

相楽 キヨコ オーナー

少しでも地域に貢献
できないかと考え
て、2003年9月に
地元の王寺中学校
の生徒2名を体験学
習として受け入れま
した。店では、商品



地域あつてのミニストップだと思います

の補充や陳列を体験してもらいました。コンビニエンスストアの大変さと楽しさを、両方感じてもらったのではないかと思います。掃除も一生懸命にやってくれたので、お客さまの立場でコンビニを利用するときにも、その店の清掃をチェックするようになったかもしれません。中学生のうちに一度働いてみるのは、とても良い経験だと思います。

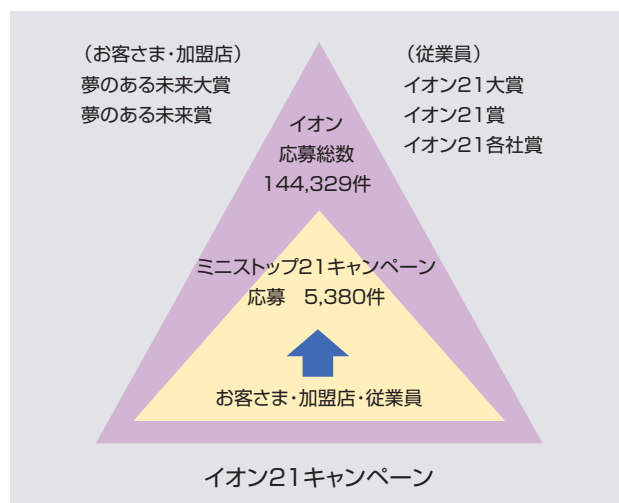
みんなが提案「ミニストップ21キャンペーン」

ミニストップをより良くするために、提案を改善につなげる仕組みをつくっています。

ミニストップでは、お客さまの満足のために何ができるのか改善策を考えて提案するミニストップ21キャンペーンを2002年度から行っています。2003年度は新たにお客さまにも参加していただき、「こんな商品、サービス、お店があったらいいな」「こんなミニストップになったらいいな」という提案を募集しました。

役員選出提案の経過

2002年度のキャンペーンに寄せられた提案の中から、役員それぞれが「担当部署でこれを実行する」と約束した提案について、その後の状況を報告いたします。



* エリアフランチャイズ含む

* 役職は2004年2月末現在

	提 案	概 要	経過・結果
 専務取締役 管理本部長 井上 雅之	ボランティア活動の募集	ボランティアに参加する機会を増やすような取り組みを	既存のボランティア活動を超える取り組みが見えていません。CA推進室でいろいろなNPO法人から意見を聞いているところです。直接参加型ボランティア紹介の仕組みを2004年度中に構築します。
 常務取締役 システム本部長 田中 茂	ペーパーレスの促進	日報や伝票などの紙への出力を極力減らしてCD-R等の記録媒体を使用	新統合会計システムで実現する計画ですが、新システムの稼働開始が遅れたため2004年度に実現予定です。
 常務取締役 商品部門担当 郷田 庸憲	私もお客さまの立場 —和惣菜の提案—	おふくろの味、ふるさとの味、など和風の惣菜の充実と、量り売り販売の実現	「菜の花おひたし」や「アサリの煮びたし」などを販売しました。添加物をできる限り使わず、手作りの味を追求しています。量り売りはミニストップデリという形態の店舗で実験中です。
	こんな時にもちょっと便利なギフト	お中元・お歳暮シーズンだけでなく、いつでも利用できるギフトの導入	「みんなの贈り物」として2004年2月より店舗にカタログを常備し、いつでもご注文を受けることができるようになりました。  店舗に常備されているカタログ
 取締役営業本部長 阿部 信行	店舗外観のキレイさ、清潔さを維持する体制づくり	店舗内外のメンテナンス・清掃のための体制を整備・改善してお客さまに安心感を	床光沢コンテストを実施して優秀店舗を表彰しました。店舗の清掃意識向上に役立っています。新内装への移行促進も今後積極的に行いますが、コストの効率化が課題です。   床光沢コンテストで表彰された須賀川岩洞店（福島県須賀川市）
 取締役開発本部長 荒川 勤	高齢者・身障者にやさしいミニストップ（自動ドア化）	バリアフリー、高齢化社会に対応し、自動ドア化など誰でも利用しやすい店舗に	2003年度から、新店は自動ドアを標準としました。身障者の方や高齢者の方にも来店していただきやすい店舗づくりを実現しています。
	ペットの散歩途中に立ち寄れるお店に（ペット用ボールの設置）	店の外にペットをつないでおける場所を設置する	2003年5月開店の店から導入を始め、現在120店に導入済みです。名称を駐犬ボールからペット用ボールに変更しました。

いろいろな立場からのご意見は、ミニストップをより良くしていくための貴重なアドバイスです。一つひとつに役員が回答しています。



2003年度の提案数

お客さまより	加盟店より	従業員より	合 計
774件	1,786件	2,820件	5,380件

お客さまからのご提案「夢のある未来」大賞

ミニストップでお客さまからご提案をいただくのは2003年度が初めてです。イオン全体では昨年の2倍以上となる23,644件のご応募をいただきました。厳



イオン21キャンペーン表彰式

正な審査の結果、ミニストップへご提案くださった清水さまが大賞*を受賞されました。*大賞はイオン全体で4件でした。

●あったらいいなこんな「イオン(ミニストップ)」

清水 智子さま(神奈川県横浜市)

地元と仲良く、コミュニティに貢献する店「地元ボードとニュース」

昔、地元の商店街は、八百屋さんも魚屋さんも皆、お店の人の顔が見えていましたが、今のコンビニにはそれがありません。コミュニティとの関わりが薄いのです。そこで提案。①店内に誰でも利用できるお知らせボードを作して下さい。「家庭教師やります」「フリーマーケットします」など、地元のニュースの交換が出来るボードです。②その上、地元ニュース満載の「イオン(ミニストップ)〇〇店ニュース」が発行出来れば最高です。私がよく利用する「伊豆高原ミニストップ」は観光客が多く利用するので、地元のランチの穴場、抜け道情報などの情報が満載の「ミニストップ伊豆ニュース」があれば、皆さまにとっても喜ばれると思います! お客さんとのコミュニケーション、そして地元の活性化に役立つコンビニを目指して下さい!!

従業員からの提案「イオン21」大賞

ミニストップ従業員からの提案が、イオン全体での表彰を受けました。

●チャイルドインターンシップ制度

高瀬 圭一さん(開発本部 開発企画部 開発情報チーム*)

*所属は受賞当時のものです。

小さい時から地域社会の一員に「チャイルドインターンシップ制度」

各店舗で地域の子供たちに仕事を体験してもらい、子供の頃から社会の一員であることを認識してもらう「チャイルドインターンシップ制度」を提案します。地域社会への貢献であると同時に、子供の頃からミニストップに愛着を持っていただけるという副次効果も期待できます。本部主導で基本プログラムを作成し、それに基づき各店舗が地域の特性に合わせてプログラムを応用すれば上手くいくと思います。この制度の展開で「地域との共生」を推進し、地域住民に愛されるミニストップ店舗として発展し続けられればと思います。

加盟店からの提案

ミニストップ「夢のある未来」賞 2件

加盟店からは、昨年に比べ約7倍もの提案が寄せられました。オーナー、マネージャー、アルバイトなど、それぞれが日々お客さまと接する中で感じた、現場の意見です。

●ソフトクリーム ギフト券(9名の方より)

デパート券やビール券のように「ソフトクリーム券」を作り、お中元に、ちょっとしたお礼やお詫びに、子供会の景品に利用してはどうかという提案が9件寄せられました。

- ・ミニストップだけにしか出来ない商品ということで、ソフトクリームのギフト券を販売したらどうでしょうか?
- ・ちょっと友人にお礼を、お詫びをと思う時、ソフトクリームを差し上げたくても先様が家にいらっしゃるかどうかかわからないことがよくあります。そんな時ギフト券があれば、いつでも都合のいい時に利用してもらえそうです。など

提案者	石川 洋子さん	能見台6丁目店(神奈川県横浜市)
	久来さと子さん	大綱ながた野店(千葉県山武郡大網白里町)
	熊倉 恵子さん	水戸吉沢町店(茨城県水戸市)
	杉森 崇美さん	鴨田町店(愛知県豊橋市)
	杉山 雅一さん	西小岩1丁目店(東京都江戸川区)
	関 敏男さん	要町3丁目店(東京都豊島区)
	藤川 知子さん	市川新田4丁目店(千葉県市川市)
	松本 卓也さん	浦和針ヶ谷店(埼玉県さいたま市)
	真々田郁子さん	越谷大沢店(埼玉県越谷市)

●入りのチャイム(2名の方より)

新規開店の店舗には自動ドアを導入していますが、既存の店舗では、入りの扉が重く、開けづらいこともあるようです。そこで、外から店員を呼べるようなチャイムを付けてはどうかという提案が2件寄せられました。

- ・身障者の方や高齢で力の衰えている方が、コンビニの重たい扉を開けるのは、かなり大変なことです。店員がすぐに気づけばいいのですが、奥で作業をしていたり、作業に夢中で気づかないことも多いと思います。自動ドアでない店には、一般の家のように外に呼び出しチャイムがあると便利ではないでしょうか。そうすれば今まで敬遠していた方たちも、来店できるようになる気がします。など

提案者	嘉納 雅美さん	七宝下之森店(愛知県海部郡七宝町)
	高橋 史子さん	仙台野村店(宮城県仙台市)

その他にも多くの提案が寄せられました

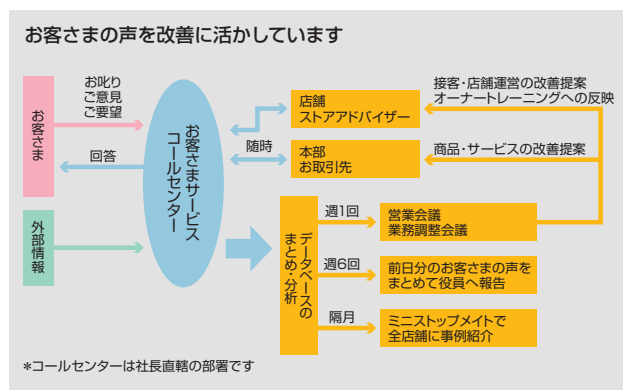
加盟店から寄せられた多くの提案の中から、さらに50名がミニストップ「夢のある未来」提案賞に選ばれました。社員からも、2003年度は昨年に比べて2.5倍の提案が寄せられています。そのうち30名が社員提案賞として選ばれました。

お客さまからの声を聞き、ミニストップの考えをお伝えする。双方向のコミュニケーションを大切にしています。別紙（はさみ込み）とあわせてご覧ください。

お客さまの声を大切に

ミニストップでは、お客さまからのお叱り・ご意見・ご要望を大切にしています。1998年3月からフリーダイヤルを設け、2004年1月からは土曜日の受け付けも開始しました。お寄せいただいた声は、その概要*をデータベースにし、店舗だけでなく本部やお取引先とも連携して改善に活かすシステムを作っています。

*お客さまの個人情報は慎重に取り扱っています。例えば、電子メールでいただいた場合などは事前に承諾を得た場合に限り、担当者へ連絡する仕組みです。



CA推進室
お客さまサービス担当
マネージャー
森出 芳孝

コールセンター

全国からの電話やメールがここに届きます。お客さまからは、商品についてのお尋ねや店頭でのサービスに対するお叱りなどさまざまな声が寄せられます。その貴重な声を、それぞれの現場にフィードバックし対応しています。寄せられたご意見やご要望はデータとして入力し、その情報を元にお取引先を含めミニストップに関わる全てが「お客さま最適」な仕組みに改善していくことに、責任とやりがいを感じます。



コールセンター

電話を受けるスタッフ



ご来店のお客さまへ

毎月1回発行する「MINI'S」で、商品情報をはじめ、お役立ち情報などをお届けしています。編集スタッフが全国の店舗をまわって取材したお客さまのコメントや写真もあり、楽しく読んでいただける冊子です。

また、店内放送やレジの画面でも商品や募金についての紹介をしています。



毎月1日に発行される「MINI'S」

株主のみなさまへ

株主総会での直接対話の他、招集通知や事業報告書をお送りし、経営状況や新しい取り組み、今後の方針について報告しています。環境社会報告書も配布しています。



環境社会報告書

お取引先のみなさまと

主なお取引先の方々と「共栄会」を作っています。年1回総会を開催し、決算状況やミニストップの政策をお知らせするなど、一緒に前進していけるよう情報を共有しています。環境社会報告書も配布しています。

加盟店や従業員と

隔月で広報誌「ミニストップメイト」を配布しています。環境問題や社会貢献に関する情報、お客さまから寄せられた声などを事例を挙げてわかりやすく紹介しています。また、環境社会報告書も配布しています。



ミニストップメイト

森林から余分な木を切り出す「間伐」は
環境保護のために大切ですが、
国産の間伐材はコストが高いため
割り箸への利用は少ないのが現状です。



ウェブサイトでみなさまへ

ウェブの特性を活かして、あらゆる方へ最新情報をお届けしています。会社情報、加盟を希望される方への説明、株主や投資家の方への経営情報、安全にこだわった食の情報などに加え、商品開発担当者が語るうんちく話など楽しい情報も紹介しています。

<http://www.ministop.co.jp/>

e-ministopでのウィルス添付メール配信について

2003年8月28日に、e-ministopの一部の会員さまに対してウィルス添付メールが配信されてしまいました。
事故発覚直後にサイトの運営を一時休止し、事故の原因および個人情報漏洩がなかったことを確認しました。その後すぐにお客さまへ直接ご連絡して状況を説明し、障害対応コールセンターを開設しました。また、事故の再発を予防するために、サーバおよびシステム管理体制の安全性を検証しました。その結果を受けて、プログラムのバージョンアップやシステム管理体制の見直しを行い、二度と事故を発生させないようにセキュリティを強化しています。電子メールによる案内（メールマガジン）の配信も休止いたしました。
ウェブサイトでも経緯と対応方法の報告をしております。
<http://www.ministop.co.jp/release/pdf/030903emini.pdf>

エコツアーの開催を続けています

加盟店の従業員とその家族を対象に、ミニストップの契約農家を訪れる生産現場体験ツアーを2000年度から続けています。参加者からは「商品への理解が深まり、親近感や信頼感が増す」などの声が寄せられます。

2003年度は、減農薬栽培米の田植えや減農薬レタスの収穫に加え、JA福岡八女の方々に協力いた



棚田米での稲刈り体験



美しい棚田の風景

いて棚田米の稲刈りツアーも行いました。2004年度は、これらのツアーにお客さまも参加していただけるよう仕組みを整え、生産者とお客さまとの距離を縮めていきたいと考えています。また、2003年度は、エネルギー・ごみ問題について学べる環境学習ツアーを新たに企画し、参加者を一般公募しました。

*イオン環境・社会報告書2004のP35でもミニストップの担当者がコメントしています。

2003年度に開催したエコツアー

実施月	内 容	開催地	参加人数(名)
5月	減農薬栽培米ツアー(田植え)	茨城県	34
7月	減農薬栽培レタス収穫体験ツアー	長野県	38
8月	環境学習バスツアー	東京都	24
9月	減農薬栽培米ツアー(稲刈り)	滋賀県/山形県	25/50
10月	減農薬栽培米ツアー(稲刈り)	宮城県/福岡県	30/23
合 計			224

*エリアフランチャイズ含む

お箸をとおして環境保護を

ミニストップでは、1999年度から弁当などを購入されたお客さまへお声かけをし、割り箸・スプーンなどは必要な方にだけ手渡ししています。使用数を減らすことで資源の節約とごみの削減を目指しています(→P11)。2003年度は、国産の間伐材を利用して森林保護に貢献するという割り箸にも取り組みました。

●マイ箸クラブで割り箸の削減



マイ箸で新商品の試食をする社員

自分用の箸「マイ箸」を持ち歩いて割り箸の使用を減らそうと呼びかける「マイ箸クラブ*」を2003年3月に立ち上げました。2004年3月



*マイ箸クラブ: エコ商品通販サイトのマザーアース・ネットとミニストップが共同で提供する、マイ箸の普及・推進のためのネットワーク。
<http://www.mother-earth.ne.jp/myhashi/>

●アドバシで森林保護に貢献

箸袋に広告を入れた「アドバシ」



「アドバシ」とは、広告入りの国産材割り箸です。国産の間伐材で作る割り箸は、輸入割り箸に比べて約4倍の値段になりますが、その差額を箸袋に入れる広告費で補い、国産間伐材の利用を促して森林保護に役立てようとNPO法人のエコメディア・ファンデーション*が提案しています。

ミニストップは、このアドバシ実用第一号として2003年10月に大妻女子大学と協力し、ソフトクリームの半額券と大学の学園祭告知を入れた箸を5,000膳、東京都千代田区の4店舗で配布しました。この割り箸には高知県産のヒノキ材(間伐材および製材残材)が使われました。

*NPO法人エコメディア・ファンデーション <http://www.ecomedia.jp/>



営業本部
東京営業部
新宿・千代田区
ストアアドバイザー
高梨 英理子

アドバシ実施者より

2003年9月に大妻女子大学店が開店して間もなく、大学の方からアドバシの相談を受けました。開店して間もない店舗を広くお知らせしたいミニストップと、学園祭に多くの人を呼びたい大妻女子大学。お互いの広告を入れたアドバシを配ることで、PRしながら環境保護にも貢献できる素晴らしい企画だと思いました。コスト面での社内調整は大変でしたが、これから学園祭や環境イベントなど機会を見つけて、積極的にアドバシを活用していきたいと考えています。



募金活動をととして、お客さまと一緒に社会への貢献を
続けています。

全国に「花の輪」が咲いています

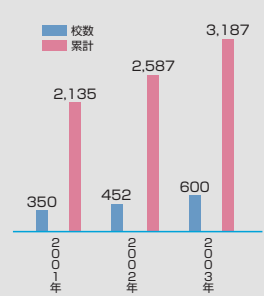
(財)花と緑の農芸財団^{*1}が
行なう「花の輪運動」への支援
は13年目になりました。お客
さまからの募金とソフトクリー
ムの売上からの拠出金^{*2}で、
2003年度は600の小学校
へ花や木の苗を贈っています。

^{*1} (財)花と緑の農芸財団

<http://www.hananozaidan.or.jp/>

^{*2} 土曜日のソフトクリームの売上から
1%を寄付しています。

贈呈した学校数



贈られた苗の生長を追って

東京都北区立十条台小学校
針山 利子 先生

2003年11月に250株もの
苗をいただきました。学校の
花壇やプランターに植え、さ
らに児童一人ひとりも自分の
植木鉢で育てています。栽培
委員が中心になって大切に手
入れをしているので、中には
4ヵ月間咲き続けている花も
あります。残念ながら枯れてしまった苗もありますが、それも
児童たちにとっては「命」を考える良い機会となっています。
また、3年生から6年生が総合的な学習の時間として行ってい
る「クリーンタウン作戦」で、プランターの花に美化を呼びか
ける札を添えて、町の数ヵ所に置きました。それを見た商店街
の方々が同じ取り組みをしてくださることになり、児童たちも
大変喜んでいました。いただいた苗をきっかけに、町にも花の輪
が広がっています。



きれいに咲き続けている花たち



花の手入れをする栽培委員と針山先生



「クリーンタウン作戦」の
プランター

店頭募金へのご協力ありがとうございました

ミニストップではレジ横に募金箱を置いています。通
年で行っている「花の輪運動」や突発的に援助が必要とさ
れる地震被災者への募金などに、2003年度もお客さま
からたくさんの善意が寄せられました。

方針

1. 店舗が地域とコミュニケーションをはかることを目的とした募金活
動「花の輪運動」
2. イオン全体で行う募金活動「カンボジア学校建設支援」募金など



繰り返し使える募金箱



募金呼びかけポスター

店頭募金一覧

募金名	期間	寄付先	店頭募金金額
「カンボジア学校建設支援」募金	4/21～ 6/22	財団法人日本ユニセフ協会	4,571,443円
「トキを森を返そう!」 キャンペーン募金	11/28～ 12/25	新潟県トキ保護基金推進 委員会	1,582,717円
イラン大地震 「被災者緊急支援」募金	1/5～ 1/20	国際人道援助機関 「ジャパンプラットフォーム」	1,708,228円
花の輪運動	通年	財団法人花と緑の農芸財団	14,692,423円
お客さまからの募金総合計金額			22,554,811円

* エリアフランチャイズ含む

武蔵野大学への協力

2002年6月、武蔵野大学キャンパス内にミニストップ
が開店したのをきっかけに、大学のゼミで取り組まれる
プロジェクトへのアドバイスや情報提供などを行ってい
ます。2004年度か
らは、授業への協力
も本格的に始まる
予定です。



武蔵野大学はエコプロダクツ2003へ出展

第三者からのご意見・編集方針

より良いミニストップを作るためには、外部の方の客観的評価とご意見・ご指摘は欠かせません。
いただいたご意見をもとに自らの活動を振り返り、軌道修正をし、迅速な改善につなげています。

伝えるための工夫を期待します



社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会
理事 環境委員会委員長

辰巳 菊子氏

昨年は弁当工場と店舗の見学、今年は座談会と対談に参加させていただきました。そこで共通して感じたのは、「せっかくの取り組みが消費者に十分伝わっていない」ということです。

情報を持っても、店舗でそれが伝わらなければ無いのも同じだと思います。場所が限られているという難しさも理解できますが、何とか伝えたいと思えば少しずつでも伝える方法があるはずです。消費者の環境への関心は高まっていますし、行動を変えたいとも思っています。店頭で目に飛び込んでくるような工夫が欲しいですね。報告書やウェブサイトでの情報提供も大切ですが、店舗でのわかりやすいコミュニケーションを期待しています。

コンビニの環境負荷で気になるのは、エネルギー消費や食品廃棄物です。どのような取り組みをしているのか、効果が上がったことだけに限らず、現在検討中の過程も積極的に出されるといいと思います。また、出来るだけ定量的な表現で、読む側にわかりやすく情報提供していただくをお願いします。

今後期待するのは、各店舗への教育・啓発です。本部が真剣に取り組めば、必ずオーナーさんも環境配慮に取り組まなければと強く意識されると思います。各店舗でオーナーさんの考えや環境方針を掲示するなど、店主の顔が見えるお店として、地域の核となるよう全店で改善していかれることを期待します。

ISO14001 第1回継続審査をととして

ピーエスアイジャパン株式会社
環境マネジメントシステム主任審査員

水城 学氏



今回、ミニストップ様の環境マネジメントシステムの第三者審査を担当させていただきました。構築された環境マネジメントシステムが適切に実施・運用されているか否かを判定するために、全部門および全店舗（約1,500店舗）の中からサンプリングで審査を実施しましたが、全3日間の審査において、店舗を含む各部門のPDCAサイクルが適切に運用されていることが確認されました。

とりわけ、昨年の初回認証審査時に比べ、加盟店オーナーさんの理解が飛躍的に進んでいました。建設部門では、省エネルギー対策、代替フロンへの切り替えや、廃棄物処理の透明化など店舗建設時の環境配慮が進んでいましたし、管理部門では、e-ラーニングの仕組みを構築し活用することで成果を上げていました。また商品部門では、環境配慮のみならず食の安全を重視しておられます。これは、リスクマネジメントや説明責任という観点でも有益です。

今後の課題は、チェックとアクトの機能をさらに充実させ、拾い出された問題、課題を効果的に改善につなげていくことでしょうか。今後とも、組織全体のマネジメントツールとして環境マネジメントシステムを有効に活用されることを期待しております。

第三者からの 評価・ご意見を受けて

専務取締役 管理本部長
統括環境管理責任者

井上 雅之



ミニストップは「できることからひとつずつ」をモットーに、環境マネジメントシステム(EMS)を使って減農薬栽培米をはじめとした安全な商品の提供、店舗の省エネルギーなどを進めております。また、「ミニストップ21」のような独自の内部コミュニケーションを進めてきました。

しかしながら、当社の活動内容がまだまだ伝わっていないことを痛感しました。今後は、EMSにおけるチェック機能から当社の問題を拾い出し、浅れなく改善につなげるアクト機能を強化し、型にこだわらず、わかりやすいコミュニケーション活動を進めていきます。

編集方針

1. ミニストップのステークホルダー（利害関係者）を結ぶ共通事項は店舗
さまざまな立場の人が読む機会が多い冊子では、店舗における取り組みを中心に掲載し、コンパクトな報告書を目指しました。ミニストップ本部中心の活動はウェブサイトで報告しています。
2. 報告書はステークホルダー同士のコミュニケーションツール
お客さま・加盟店・従業員・経営トップのステークホルダー・ミーティングを2回開催。このミーティングで得た経験を、経営層や従業員は日常業務に活かしていることも報告しました。また、コールセンターに寄せられた声やご返信いただいたアンケートを別紙にまとめました。
3. 本業での社会的責任
食品を取り扱う小売業として、フランチャイズシステムによる事業者として、果たしている社会的責任を開店前から閉店までのフロー図によって見やすく報告しました（→P3～P6）。
4. GRI サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン 2002を参照

「環境報告書ガイドライン（2003年度版）」も併用して参考にしました。

*GRI (Global Reporting Initiative)：環境面だけでなく社会性・経済性を含めた報告書作成を世界的に標準化しようとする国際団体。UNEP (国連環境計画)をはじめ、世界中のサステナビリティレポートに取り組み団体・個人によるマルチステークホルダー形式でガイドラインを作成・発行している。



このロゴはGRI日本フォーラムの会員であることを証明するもので、報告書の内容を認証するものではありません。

●対象期間 2003年3月1日～2004年2月29日
(当社2003年度に該当)

※最新のデータが対象期間外の場合はその旨を表記しています。

●報告対象エリア ミニストップ株式会社およびミニストップ株式会社とフランチャイズ契約を結んでいる加盟店舗。

※一部のデータにはミニストップ株式会社とエリアフランチャイズ契約を結んだ店舗のデータが含まれており、その旨を表記しています。

編集後記

伝えたいことはたくさんあります。社会性報告を加えることによって、報告事項も増えました。しかし、読んでいただけない報告書は、報告書本来の目的から考えて本末転倒です。

そこで必要な報告量に絞り、かつ読みやすい報告書を目指しました。

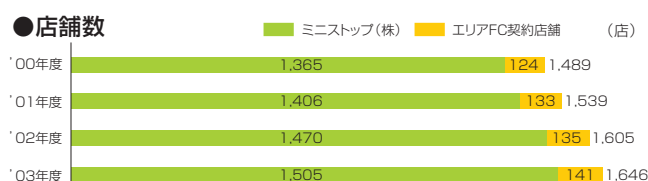
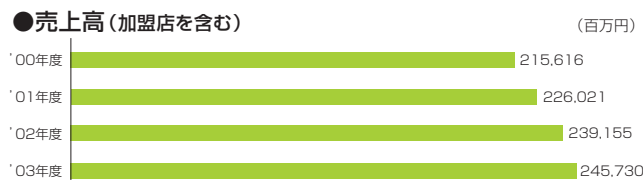
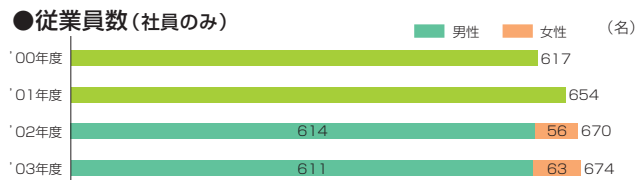
みなさまのご意見をお待ちしています。



(左から) 野口、岡村、川越

会社概要

- 社名
ミニストップ株式会社
- 事業内容
コンビニエンスストアに店内加工ファストフードを組み合わせた
コンボストア「ミニストップ」のフランチャイズ方式によるコンビニエンスストア事業
- 代表者
代表取締役 社長 横尾 博
- 設立
1980年5月21日
- 資本金
74億91百万円
- 上場証券取引所
東京証券取引所市場第一部(1996年8月1日上場)
- 本社
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-1
- 本部事務所
〒261-8540 千葉県千葉市美浜区中瀬1-5-1
- 主要事務所および所在地
 - ① 本部事務所(千葉県千葉市美浜区)
 - ② 東京事務所(東京都千代田区)
 - ③ 東北地区事務所(宮城県仙台市青葉区)
 - ④ 東海地区事務所(愛知県名古屋市中村区)
 - ⑤ 近畿地区事務所(大阪府大阪市中央区)



※ 2004年2月末日現在。
※ 売上高と経常利益は単体ベースになります。

◎お問い合わせ先／ミニストップ株式会社
CA推進室 環境推進担当 川越 靖史・野口 秀明・岡村 幸代

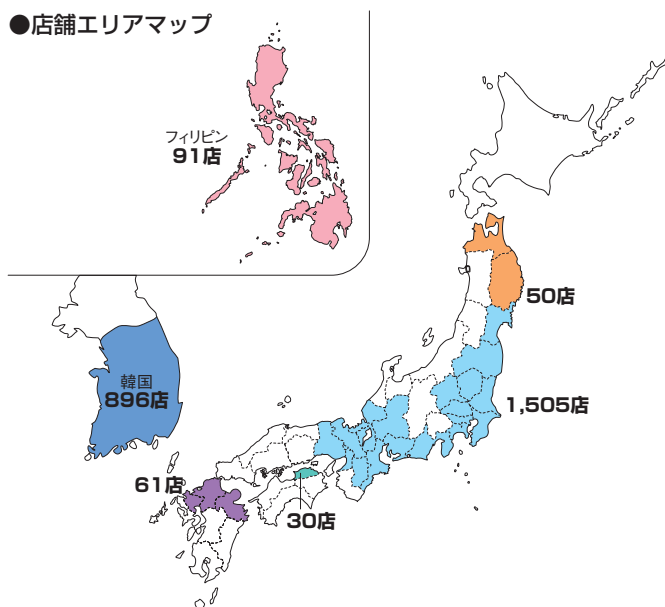
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-1 神田橋安田ビル3F
TEL.03-3259-5284(ダイヤルイン) FAX.03-3294-2051
ホームページ <http://www.ministop.co.jp/kankyo.html>

本報告書は上記のウェブサイトでもご覧いただくことができます。また、PDF形式のダウンロードもできます。

◎発行日 2004年5月 通算第5号 ◎次回発行日は2005年5月を予定しています。 ◎制作協力/株式会社クレンジン



●店舗エリアマップ



- ミニストップ(株)
- エヌ・ビー・ジーエムエスネットワーク(株)
- 四国エムエスネットワーク(株)*1
- エムエス九州(株)
- 韓国ミニストップ(株)*2
- ロビンソンズ・コンビニエンス・ストアーズ・インク

※ 2004年2月末日現在。

*1: 四国エムエスネットワーク(株)は2004年3月23日付けでジェイアール四国エムエスネットワーク(株)を子会社化したものです。

*2: 韓国ミニストップ(株)は2003年6月30日付けで大象流通(株)を子会社化したものです。

●商品売上構成比 (単位:百万円)



この報告書は製版をCTP(Computer to plate)化し、ポリエチレン・アセテートフィルムの使用を全廃しました。
これに伴いフィルム現像時のアルカリ性現像液も不要となりました。
印刷用紙には、使用することで森林保護に貢献できるFSC森林認証紙を使用しています。
大気汚染の原因となるVOC(揮発性有機化合物)の発生を減らすため、印刷インクは植物性的大豆油インクを使用しています。